

★67 教室めぐり 愛媛

宮崎洋子先生
tel.089-970-6071
松山市北久米町 308-5
https://youko-piano.info



洋子先生らしいウィット。集中力が欠けた生徒さんには「お泊まり椅子」をご案内

生徒家族の力で作られた教室だから、
一体感にあふれ、活力がある。

ピアノ科 宮崎洋子先生クラス



教室運営に欠かせないのが毎月行なっている「ひける会」。コンサートに向けてのマナーが自然に身につく、友だちの演奏を聴いて励みにもなっている。演奏後には一人ひとりに洋子先生からのエールが届く。保護者同士の交流もとても活発だ



1988年、片岡ハルコ先生のワークショップでカナダへ。赤ジャケットが洋子先生



四国ブロックとして、東 誠三先生をお招きして、ピアノクリニックを開催



ネクタイ姿の生徒さんの「コンチェルトの夕べ」出演で第54回夏期学校へ



「心で感じてごらん」教室の40周年記念の父兄からの贈り物。洋子先生の口癖だ

公式サイトに掲げる「ようこそんせいのピアノ教室」のネーミングから受ける柔らかい印象そのままに、松山市の教室を訪ねると、宮崎洋子先生（中国四国地区ピアノ指導者の、はち切れんばかりの笑顔が待っていた。保育士になりたいと、高校時代に始めたピアノ。それが、大学時代の教育実習先の中学校の音楽の先生から「あなたにぴったりの教育法がある」と紹介されたのが、運命のターニングポイント。ピアノ研究グループの宮脇博士先生がご出産前で、後継者募集中だった。縁あって、その新居浜市の宮脇先生の教室を引き継いで3年後、松山市の現地に転居

し、今度は一から今の教室づくりを始めた。生徒数が10人くらいになった頃、ピアノ科の夏期学校が始まった。松山から松本までの遠征費用を工面することが難しく「諦めるしかない」と思っていたところに、生徒の親御さんたちが「先生、行ってきてー」と背中を押した。関西のピアノ科研究会への往復を夜行の船で参加した時も、松山に帰り着いたら、財布の中身は70円だけ。仕方なく自宅まで歩いて帰宅。「財布は空でも心は満杯。研究会で得られたことの数々が宝物。そちらに幸せを感じた時代でした」と笑い飛ばす。



0～3歳児コースで実践されている内容も積極的に学ばれる洋子先生は、楽器前の子どもたち向けにリトミツ的な要素を加味した「リズム遊び」を導入している



楽器に移行する前の「親子でリズム遊び」も大切なお稽古の一つ



コンサートでの足台係は、いつも男子たちの担当だ。ナイスアイデア！



2台ピアノで小さい頃から斉奏やアンサンブルを楽しむ。上級生になったら協奏曲につながる



教室のメインイベントの「夏のコンサート」では、他の楽器とのアンサンブルにも力を注ぐ

ピアノ科を牽引された片岡ハルコ先生とのご縁ができた時も喜んだものの、条件は松本まで毎月1通うこと。当時の貯金は12万円。2回分だった。でも片岡先生への返事は元氣よく「はい、毎月通います」。よくしたもので、その2回の松本行きの間には、関西、関東、岡山に引越した親御さんからは宿泊と食事の提供が続いた。「なぜかいつも助けられて道が開きます。信じる道を真つすぐに歩く、ただそれだけの人生ですが、いつも学ぶ幸せに満ちています。結局、10年間、松本に通い詰めた。「それもこれも、すべて支えてくれた生徒家族のおかげ。この教室は、生徒家族の力で作られた教室なんです」

取材当日は、ピアノ教室でこまでワイワイと活動できるのかと驚かされるほど、多彩なプログラムが続いた。リトミツ的要素を取り入れたリズム遊び、ミニレッスン、「ひける会」のソロ演奏、2台演奏、音符の足し算、つり堀、スケール問題…。「ひける会」とは、レッスン以外に、月に一度集まり、自分の持ち曲の中から1曲演奏、その後『音符』『記号』『楽典』『指番号』などを遊びの中で学ぶもの。お互いの成長を確認する場にもなっている。7時間で40人ほどの生徒さんがこうしたプログラムを満喫。ピアノ科のグループレッスンの新しい形を見た思いがした。



みんなの前で挨拶をして、ソロ演奏、そして挨拶までの一連の流れを誰もが体験するのが「ひける会」の狙い。これを毎月実施している



ミニレッスンでは、洋子先生は生徒からの内なる表現をじっと待ちながら、的確にレッスン。この時は、クーラウのソナチネ1楽章



「ひける会」では、2台ピアノでの斉奏も大切にしているポイント。互いの気持ちを合わせることが、将来のアンサンブルにつながる